新しい授業づくりの文化をつくる

令和5年6月15日実施
「能力ベイスの授業づくり実践講座」通信
第11号　A セット　授業研究会

A セット授業研究会　6月15日(木) @佐竹台小学校
単元名:「大陸に学んだ国づくり」 授業者:佐川　一季先生（佐竹台小学校）

「能力ベイス授業づくり実践講座」では、教材研究と授業研究会を1セットとして実施しています。今回は A セットの授業研究会を行いました。本時では、「人々がどのような思いで大仏づくりに参加したのか」について、天皇、僧･行基、民･農民、役人、貴族の中から興味を持った立場について調べ学習をしたことを基に全体で話し合いをしました。齊藤先生のお話では、多面的･多角的な分析について、本時の問いについてお話いただきました。

A セットから学ぶ　授業づくりのポイント

多面的･多角的な考えを通して、納得解･最適解を目指す「問い」を設定する

➡今まで使われてきた「なぜ～したのか？」の問いは、資料を調べれば分かるコンテンツベイス問いになってしまいます。史実を基に、多面的･多角的に思考し、納得解･最適解に導く問いを設定することが重要です。

授業者の学び

社会事象に対して多面的･多角的に考えることができるように単元を計画しました。多角的を意識して問いを設定したのですが、それにより、多面的が弱くなってしまったと齊藤先生からご指導いただき、改めてどのような問いを立てるかで、子どもたちの学びが変わってしまうのだと気づかされました。また、最初に与える資料をこちらが精選して提示したことに対しても、子どもたちの学びを操作してしまっているとご指導いただきました。子どもたちが様々な資料をもとに様々な角度から調べ･考え、それを1時間の授業でどう深めるか、改めて教師の在り方についても考えさせられる機会となりました。

授業者の提案

授業者
佐川一季先生

Why なぜ学ぶのか
子供達が身につけるべき資質･能力は？

●社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力

●多面的･多角的にとらえる力

What 何を学ぶのか
子供達の学習対象は？

内容知
〇縄文時代から時代が進展していき、人々の集団が「むら」から「くに」へと変化し、各地に王が出現したこと。
〇大和政権がつくられ支配を広めたこと。
〇遣隋使や遣唐使の派遣により大陸から学んだことを政治に生かし、天皇を中心とした律令国家が確立されたこと。

方法知
〇意思決定型の学習
【事実を基に目標･ゴールを設定→選択･解釈→判断(自分で決める、自分の納得解をもつ)】

How どのように学ぶのか
子供達の学習過程は？

【本単元での問題解決的な学習サイクル】

目標･ゴール
「天皇中心の国づくり」で人々の願いは実現されたのだろうか。

事実
飛鳥時代以降、天皇中心の国づくりが行われていた。

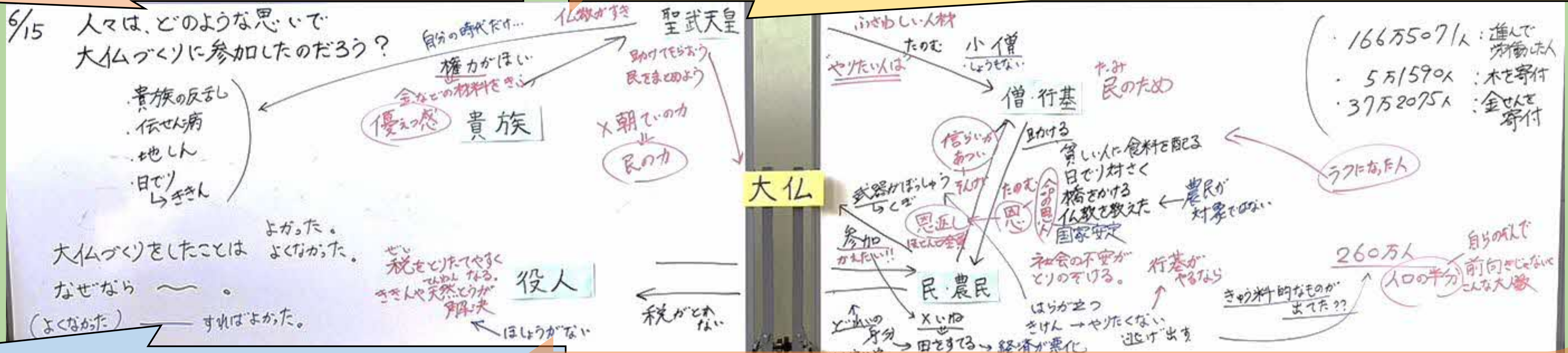
情報収集･選択･解釈
飛鳥時代以降、天皇中心の国づくりが行われていた。

判断
天皇中心の国づくりにおいて、人々の願いは実現された。なぜなら～だから。天皇中心の国づくりにおいて、人々の願いは実現されなかった。もっと～すれば人々の願いが実現された。

本時の板書

本時の問い　人々は、どのような思いで大仏づくりに参加したのだろう？

聖武天皇、**貴族**、**役人**、**僧･行基**、**民･農民**　の5つの立場から調べたことを共有･整理



本時のまとめ　大仏づくりをしたことは～。なぜなら･･･。―すればよかった。

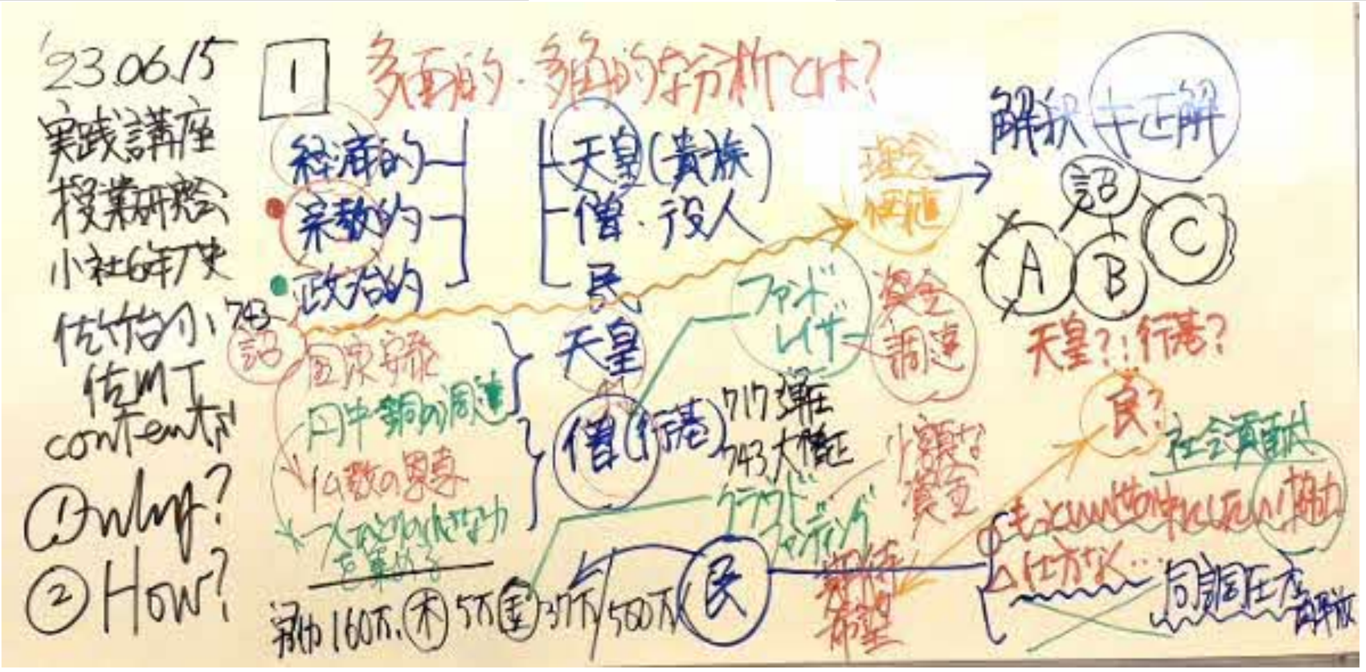
齊藤先生のお話

社会科の目標【学習指導要領　第２章　第1節　１　教科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

Why　なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？



多面的・多角的な分析とは？

多面的・・・①経済的②宗教的③政治的　　多角的・・・●天皇、貴族●行基を代表とする僧侶●役人●農民を含めた民

発議された詔の理念とか価値の解釈を丁寧にしてもらいたい。教科書の詔の解釈について教師側で選択して提示したが、それは違う。全ての解釈を自由に読み、自分で判断することが大事。

今の時代に置き換えたら行基はどんな存在か。「ファンドレーザー」・・・NGO、NPO 法人などで、資金調達をする人のこと。非営利活動。

●天皇
①宗教的・・・詔、仏教の力を借りて国家安泰させたい、平和な国にしたい。
②政治的・・・銅の調達

天皇は行基の力を借りる
717年　聖武天皇が行基を弾圧
743年　大僧正(僧で１番上の位)

●行基を中心とする僧侶
①宗教的・・・行基は、日本中歩いて仏教の恩恵を大事にしようと言った。
②政治的・・・銅の調達　1人ひとりの小さな力を集める仕事

寄付、労働力　　行基の教え

●民(全国民およそ 500 万人)
労働 160 万人　木の寄付 5 万人　お金の寄付 37 万人

割に合わないにもかかわらず、なぜ農民や民は寄付したのか？・・・行基の教え
クラウドファンディングに比べれば、相当額が大きかったかもしれないが、この人の理念に共感した。いい世の中にしたいという期待と希望が寄付する人を支えている。
今の私たちの時代では「社会貢献」と言える。社会のために働いている。
子供たちは今日、農民は前向きであると捉えていた。しかし、「でもね」も大事。同調圧力から解放させる。個別最適な学びの重要視したい。

How　どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？

問い「人々はどのような思いで大仏づくりに参加しただろうか」で良かったのか

「なぜ、聖武天皇は大仏を造ったのでしょう。」は、今まで使われてきた「なぜ~したのか？」の問いだが、コンテンツベイスの問い。資料集で調べれば分かる問いであり、多角的に考えることができない。
今回の問いでは「人々は」が重要。この「人々は」と問うことで「多角的」な視点を入れ込んでいた。しかし、「多面的」という側面が弱くなっている。

展開事例

問い「人々はどのような思いで大仏づくりに参加したのだろうか」

複数の立場で調べる（個人の段階で多角的に問題解決）：天皇　貴族　役人　行基　民

全体で共有（ICTを活用）
●タブレット上で事前に貼り込ませる。
●ボードにカードで貼り、大事なところはどこか見えるようにしておく。

間口を絞った問い
民と行基に焦点化

行基
●なぜ、行基は民にそんなにも依頼したのか。
教えを広めたい(布教) ⇔ 批判的思考 ⇔ 天皇の期待に応えたい

民
●なぜ、民はあれだけ寄進したのか。
行基の教え(期待)に応えたい ⇔ 批判的思考 ⇔ 渋々

納得解・最適解
「史実に則して判断」
・客観性　・妥当性　・信頼性

歴史的な史実を学んでいるのではなく、史実に関わったことで、史実をこれから創っていく、そういった子供に是非していただきたい。
今のクラウドファンディングのキーワードはワクワク感や期待。全部とは言わないけれど、一部の民は大仏づくりに期待をしたのかもしれない。将来を夢見る人たちがその理念に共感しながら関わっていく事実でもあったのかもしれない。そういう夢のある授業を創っていただき、その中で、学習指導要領が目指している多面的かつ多角的で批判的な思考を持ち続けることができる吹田のお子さんたちを創っていただければと思う。

受講者より

●齋藤先生のお話はとても深く、目の前の子供達に敬意を持って対しているのが感じられました。子供達が学ぶ歴史は、今とつながり史実を作っていくことになるという話が心に残りました。子供達とともに史実を作ることに力を尽くせる私達教員の仕事も夢があると感じました。(O 先生)
●歴史上の人物の偉業や行ったことを今の現代の仕組みに置き換えて説明することで、今の自分事に考えていくことができる、そして歴史を学ぶ良さを子供たちに実感させせることができると思いました。(U 先生)

【編集後記】
大仏づくりの営みの中に、まさかクラウドファンディングがあるなんて考えもしなかった。現代との共通点を見出せたことで、その時代に民衆が感じたワクワク感や期待が鮮明になってくる。史実に関わることを体感した講座であった。(文責:教育センター山埜)